

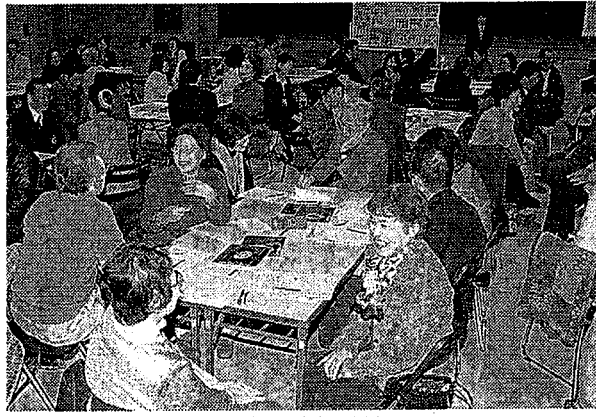
熟年離婚回避へ会話術学ぶ

「男女ミックス型」が理想

井原で講座 中高年中心に100人

定年退職後の配偶者やパートナーとのコミュニケーションのあり方について学ぶ市民講座が昨年12月、井原市内であり、中高年を中心約100人が参加した。備中県民局の主催で、心理カウンセラーの本城裕さんが講師を務めた。熟年離婚が県内でも増加しており、参加者は熱心に耳を傾けていた。

セミナーではまず、近くのひととペアを組み、お互いにすてきたと感じたところを伝え合ったり、ジェスチャーゲームをしたりして、思っていることを他者に伝える難しさを参加者に認識してもらった。中でも男性と女性



初対面の人との会話などを通じて、理想のコミュニケーションのあり方を学ぶ参加者ら—井原市内で

は会話のスタイルが違い、「一体と一緒で、男女では心理も全く違つと思つていたほうが無難です」と本城さん。男性の会話は論理的、客観的、表面的で、女性は情緒的、主観的、共感的な傾向があると指摘。女性は男性に対して、目を見

ら割り込まずに聞いてほしい、男性は女性から「さすがあなたね」とほめてほしいなどの特性があるという。

自分の会話スタイルだけが正しいと思うことがコミュニケーションを損なう原因となるので、互いに3割ほど異性の会話スタイルを採り入れる「男女ミックス型」が理想だと説明した。

「いきなり優しい言葉をかけるなど、一気に変わると相手に引かれるので、少しずつ積み重ねていくことが大事。やった分だけ結果は得られます」と話した。

参加した倉敷市内の60代男性は「男と女では話し方や物の感じ方がずいぶん違うと改めて思った。妻とはうまくやっていくつもりだが、思いこみかもしれない。会話の仕方を見直してみたい」と話していた。

県保健福祉課による

と、県内の05年の離婚件数は3722件と、20年前に比べて約1・5倍に増加。そのうち、同居期間が20年以上の「熟年離婚」は551件と約2倍に増え、熟年離婚が全体に占める割合は14・8%と4倍以上している。